

岩倉市部活動地域連携・地域移行だより No.4

岩倉市教育委員会
岩倉中学校・南部中学校
令和7年1月発行



最上位
目標

岩倉市における中学校部活動の地域連携・地域移行推進計画

～子どもたちに、持続可能でより豊かなスポーツ・文化環境を提供します～

地域連携・地域移行の進捗状況

令和6年度第2回部活動検討懇談会(R6.11.21開催) (議題)

(1)各種アンケート調査の結果について

- ①地域連携・地域移行に関する意識調査
- ②小中学生の実態及び意識調査
- ③「子ども未来寄合」における子どもたちの意見

(2)今後の取組について

- 部活動座談会の開催について
- 拠点校部活動の導入
- 部活動指導員、サポーターの増員について

(3)これからの方向性について(意見交換)

- ①地域活動への中学生の参加促進策について
- ②合同部活動の拡充・地域人材の拡充について
- ③今後の方針について
 - 現存する部活動の存続について
 - 休日の部活動の地域移行について
 - 中学生が参加できる地域活動の拡充について

部活動座談会「大人だけでは決めない！部活動の地域移行」の開催（R6.12.24開催）

対象者：児童生徒、保護者、教職員、地域指導者（参加者：107人）

全体説明

岩倉市教育委員会 教育長 野木森 広

地域連携等に関する事例紹介

～「学校部活動」を新たな「地域コミュニティ活動」へ～
一般社団法人 未来地図代表理事
代田 昭久(前飯田市教育長)

グループディスカッション

テーマ「岩倉市のミライのブカツをともに考えよう」
岩倉市部活動指導員
高木 辰也(前岩倉南小学校長)



全体説明、代田昭久氏による様々な事例紹介の後、グループディスカッションを通して、参加者それぞれの立場からの意見、想いを共有するとともに、具体的課題等について議論を行った。

令和7年度からの方向性

- 1 どちらかの中学にしかない種目をやりたい生徒が、2校合同の休日練習に参加できる制度「**拠点校部活動**」を導入します。
- 2 条件の整った部活動から、**休日の2校合同練習や合同チームで大会に参加ができる種目**を増やします。
- 3 **部活動指導員や部活動サポーターの増員**を図ります。
- 4 **中学生が参加できる社会教育の分野**を増やします。

各種アンケート等調査結果の概要

①地域連携・地域移行に関する意識調査（R6.9実施）

地域移行・連携を行う理由、進め方、メリット、デメリットなどを調査【回答数：小中学生 993人 保護者 228人 教職員 95人 地域指導者 48人】

- ・メリットは「教員よりも専門的な指導を受けることができる」と評価、デメリットは「指導者が複数になると指導方法に違いが生じる」ことを懸念。
- ・地域連携等を進める理由として、教職員、保護者、地域指導者は、「先生の負担が大きすぎる」と考え、小中学生は「地域連携等によりスポーツ・文化環境を豊かにできる」と考えている。
- ・進め方では、教職員、保護者が「条件が整った部活動から順に進めるべき」という意見が多く、地域指導者は「地域移行は行わず地域連携を進めるべき」という意見、小中学生は「部活動は学校が中心となるべき」という意見が多い。
- ・進めるにあたっての大切なことは、教職員、保護者、地域指導者は「子どもたちの指導に適した指導者の確保に努めること」という意見が多く、小中学生は「中学生が参加しやすい場所や時間を工夫すること」という意見が多い。

②部活動に関するアンケート調査（R6.10実施）

小学生：地域クラブの所属状況、部活動への参加希望などを調査【回答数：小学生 4・5・6年生 約1,000人】

- ・約3割が地域クラブに所属（ダンス・サッカー・野球・和太鼓等）
- ・活動してみたい活動は、バドミントン、卓球、パソコン、ダンス、バレーボールの順に多い。
- ・中学生になったら、部活動だけに参加したいが約6割、約4割が部活動とそれ以外のスポーツや文化活動にも参加を希望する。

中学生：部活動の参加状況と目的、地域クラブへの参加希望、参加状況等【回答数：中学生 約900人】

- ・約9割が学校部活動に所属しており、友人と楽しく過ごすことや、体力・技術の向上を目的とした参加が多い。
- ・休日の学校部活動が無くなった場合、約6割が地域で行われる活動に参加したいと考えている。
- ・約3割は、地域で行われる活動に参加しており、約半数は競技性・専門性の高いスポーツ・文化活動に参加している。
- ・取り組んでみたい活動としては、バドミントン、卓球、パソコン、ダンス、バスケットボールの順に多い。
- ・休日に地域で行われるスポーツや文化活動に参加する場合は、学校部活動の延長として活動したいという意見が多い。
- ・学校部活動が短くなった場合、約半数がその時間を趣味や友人との遊びに充てたいと考えている。

合同部活動参加者：部活動の参加状況等【回答数：柔道部 46人 サッカー部 68人】

- ・約8割が、合同部活動が楽しいと感じており、他校の生徒との交流が有意義であると感じている。
- ・約8割が部活動指導員による指導に満足しており、合同部活動を導入したことにより良い影響があったと感じている。

③部活動地域移行説明動画「部活動の地域移行って何だろう」に対する意見集約（R6.7～11実施）

「子ども未来寄合」メンバー116人 【回答数 45件】

- ・部活動の時間短縮は、生徒にとって学業や個人の自由時間を増やす利点があるという意見が多い。一方で、活動時間の短縮により顧問や先輩との交流が減り、団体としての一体感が損なわれるといった意見もある。
- ・地域指導者による指導の利点と課題として、専門的な指導を受けることで技術の向上が期待される反面、参加にあたっての経済的な負担や地域指導者との関係性など、学校以外の活動への参加が、生徒によっては戸惑いを伴う場合がある。
- ・部活動には多様な要望があり、時間の短縮が新たな挑戦や活動を促す一方で、練習を増やしたい生徒の要望も考慮が必要となる。短縮と拡充のバランスが重要という意見が目立つ。



《参考》部活動地域移行説明動画1のQRコード

動画1